

平成27年1月 定例委員会々議録

- 1 日 時 平成27年1月27日(火) 午前10時00分～
- 2 開催場所 会議室 301
- 3 出席委員の氏名
委員長 齋藤和夫 委員長職務代理者 黒川優子
委員 山崎克弥 委員 中野信男
委員 秦久美子 教育長 上原洋一
- 4 説明のため出席した職員
教育次長 金子彰男 学校教育課長 山田公一
子育て支援課長 伊藤謙治 社会教育課長 堀克彦
指導主事 齋藤暁史
- 6 本委員会書記
学校教育課 猪股加代子
- 7 傍聴人
1名
- 8 会議に付議した事件
諸報告
(1) 行事報告及び行事予定
(2) 教育長報告
(3) 寄付報告
(4) 共催・後援の教育長専決報告

協議題
(1) 新規後援申請
(2) こども夢づくり支援事業について
「届けよう、モザンビークの友だちに日本の文化を！」：分水中校

その他

会議録 別紙のとおり

1. 開 会 宣 言 午前10時00分～

2. 会議録署名委員の指名 秦 久美子 委 員

3. 諸報告

(1) 行事報告及び行事予定について

《各課長が報告》

(2) 教育長報告

〈上原洋一教育長が報告〉

● 入試の季節

- 1月10日(土)に入試があった燕中等教育学校の合格発表が18日(日)に行われ、定員80人に対して受験した児童は122(120)人、うち燕市内からは71(49)人が受験し、燕市内からの合格者は52(36)人。
- 中学3年生の多くは1月20、21日に私立高校の入試を受け、受験シーズンが開幕した。20日(火)には長岡高専の推薦入試も。2月12日には公立高校特色化選抜がある。高校3年生も1月17日(土)18日(日)に行われた大学入試センター試験の自己採点に基づき出願先を決めるとともに、始まりつつある私立大学の一般入試に臨んでいる。

● 平成26年度燕の学校教育・研修成果等報告会(1月14日)

- 標記報告会を実施させていただいた。燕市内の学校からの参加は65(77)人、三条市からも3人参加があった。
- 内容は「県外研修視察報告」、「新潟大学パートナーシップ事業」、「外国語教育推進モデル地域事業」、「燕長善タイム」、「中学校学力向上対策プロジェクト」の5つ。
- 県外視察のうち、燕東小小澤教諭は、石川県七尾市立山王小学校、羽咋市立羽咋小学校において学校体制による学力向上の取組について視察を行った結果をふまえ、すでに自らの授業実践で工夫しているとの報告があった。
- 新潟大学パートナーシップ事業の実施校である島上小の阿部教諭は、「書く活動を通して活用力を育てる指導の工夫」に関する2年間の取組による成果と課題を発表した。
- 県教育委員会委託事業である外国語教育推進モデル地域事業は、吉田中学校区の4つの小学校から発表があり、吉田北小からは、小学校段階の「読む」「書く」指導の有効性について成果があったと報告された。
- 燕長善タイムは燕西小の取組。振り返りの会で授業の振り返り等を行って

いる。

- 中学校学力向上対策プロジェクトでは、2年目の数学が、全国学力調査やWEB配信問題で成績が向上したことや、各学校の連携が図られたことを成果として発表した。

● 今井家住宅に文化庁登録有形文化財プレート交付（1月15日 今井家）

- 昨年7月18日に国の文化審議会での答申があった今井家住宅が12月19日付で登録され、登録証、登録文化財プレートを伝達した。

● 第2回つばめっ子かるた大会（1月24日 体育センター柔道場）

- 3人1チームで40チーム（120人）申し込み。低、高学年の部に分かれ実施した。
- 風邪により欠場チームが出て扱いは不戦勝だが、急きょ市長、小林議員、上原で相手を務めた。結果は、学校や家で練習してきた3年生に完敗。
- 結果は低学年1位吉田北、2位燕北、3位島上、高学年1位燕南、2位吉田北、3位大関。燕南は昨年も1位。

○委員（中野 信男）

公立高校の特色化選抜は、具体的にどのような変更となるのか、教えていただきたい。

○教育長（上原 洋一）

従来の推薦選抜よりも、定員が少なくなっている。内容は、スポーツ、文化活動等で顕著な実績のある生徒を学校ごとに条件を決めて募集する方法に変更となったものである。

○委員長（齋藤 和夫）

先日開催された燕の学校教育・研修成果等報告会について、もう少し時間的な余裕があるといいのではないかと思われる。質問等の時間がほとんどとれな状況であった。来年度以降は工夫していただきたい。

(3) 共催・後援の教育長専決報告

4件の継続後援申請について

4. 協議題

(1) 子ども夢づくり支援事業について

《山田学校教育課長が説明》

4 協 議 題

(1) 新規後援申請

2件の新規後援について

「第2回健康麻雀高校生大会」

「第1回健康麻雀小中学生大会」

《山田学校教育課長が説明》

○委員（黒川 優子）

教育委員会の後援については、必要ないのではないかと考える。事業目的にある社会的イメージの浄化を図るために子どもたちを使うのかと受け止められる。

○委員（山崎 克弥）

結論は、必要ないと考える。小中学生の麻雀大会に後援するのは違和感がある。

○委員（齋藤 和夫）

麻雀の今までのイメージは金銭を賭けてやっていた。この団体は、健康麻雀を普及させるとのことが目的であるとの趣旨はわかるが、大人が対象であれば、良い事業である。

子どもたちが相手であるので、子どもたちは団体が考えていないような方向にいつてしまう可能性もある。世の中には健康麻雀だけでなく、金銭を賭けての麻雀もある。大人と違って、小中学生、高校生に麻雀を教育委員会が推薦するのは問題があると考え。今回は、後援を認めない方向で検討いただきたい。

○委員（中野 信男）

麻雀は良いゲームであるといっている。ゲームが進んだ時の状況推測、状況をみて判断ができ、素晴らしいゲームと考える。しかしながら、今まで、麻雀の環境に問題がある環境で行われていた。事業を否定するのではなく、社会環境を考えると教育委員会が後援をすることは誤解されることとなると思われるので、控えるべきであると考え。

○委員（秦 久美子）

皆さんと同じように考えている。大人に進めていただくのは良いことである

が、子どもが麻雀を覚えたことにより、子どもも大人も意図としない方向に行くことも考えられる。教育委員会が後援し、推進する事業ではないと考える。

○教育長（上原 洋一）

委員の皆さんのご意見と同感である。教育委員会が後援する事業は子どもの教育上適切なものであること、望ましいことの委員のみなさんの判断が必要である。

事業目的の社会的イメージの浄化、健康という言葉の事業については、子どもたちに進めるには難しいと考える。

審議の結果、全員一致で承認の見送りとされた。

(2) 子ども夢づくり支援事業について

「届けよう、サンプラカの友だちに日本の文化を！」分水中学校

○委員（黒川 優子）

次に繋がるような良い事業と思われる。協力していただきたい。

審議の結果、全員一致で承認された。

5 その他

(1) その他

幼稚園・保育園・小中学校の卒業式の日程について

6. 閉 会 午前10時40分

委員長 齋藤和夫

会議録署名委員

会議録調整者
